

5/12「母の日」を前に、 感謝の気持ちを“お掃除”で伝えよう 「夫のお掃除実態調査」

- ・妻の掃除を「見て見ぬふり」の夫たち
- ・夫のお掃除参加のカギは、「プロジェクト型掃除」
- ・「夫の好きな掃除(≒妻が手伝って欲しい掃除)」と補完する結果に。

株式会社ダスキン（本社：大阪府吹田市、社長：山村 輝治）は1963年にお掃除の会社として創業しました。今年で50周年をむかえるにあたり、2012年12月に主婦800人を対象とした「主婦のお掃除実態調査」を実施。掃除にストレスを抱え、家族の参加を望みながらも一人で掃除を行う妻たちの実状が明らかになりました。これを受けて5月12日の母の日を前に、問題解決に向けて重要な役割が期待される子育て世帯の夫を対象に「夫のお掃除実態調査」を実施。夫の掃除に対する意識の低さと、夫婦間における認識のずれ違いが浮かび上がりました。

資料構成ご紹介

P.1～3 夫のお掃除参加の実態 ①～③

- 妻より「掃除がうまい」と思っている夫は3割以上。
- 男性の2週間以内の掃除経験は全体的に低く、1位は「食事の後片付け」49.3%。
- 妻の掃除には「満足」と約半数(46.2%)が回答も、妻に感謝の言葉を「伝えている」のは35.0%。
- 妻の掃除に対する夫の評価(75.2点)は高いが、自分に対する採点基準も甘め。
- **妻の強烈な義務意識に反して、夫は「毎日の掃除はそこまでしなくていい」と感じている。**
- 夫の参加意欲向上には「効果・成果の実感」や「ご褒美」など、**実感と分かり易い指標を提示。**
- **普段の掃除は「目立つホコリや汚れ」と「水周り」を「こまめに」を行えば高評価に。**
- 夫婦では、「好きな掃除」と「手伝って欲しい掃除」の互いの好き・嫌いが相反し、補完しあえる結果に。

P.4 専門家のコメント

①調査結果の内容を鑑みて
伊東 明さん 心理学者(博士)

②おそうじブルーをぶっ飛ばせ！
パパ子そうじのススメ
滝村 雅晴さん パパ料理研究家

P.5 「夫のお掃除実態調査」 調査概要

男性		女性	
好きなお掃除ベスト5		手伝って欲しいお掃除ベスト5	
1位	床の掃除機がけ	1位	浴室
2位	浴室	2位	窓ガラス・サッシ
3位	食事の後片付け・皿洗い	3位	食事の後片付け・皿洗い
4位	床のモップがけ	4位	エアコン
5位	家具・家電の拭き掃除	5位	庭・外回り

男性		女性	
やりたくないお掃除ワースト5		好きなお掃除ベスト5	
1位	トイレの掃除	1位	床の掃除機がけ
2位	キッチンの掃除	2位	床のモップがけ
3位	レンジ・換気扇	3位	キッチンの掃除
4位	床のそうきんがけ	4位	食事の後片付け・皿洗い/洗面所
5位	洗面所	5位	トイレの掃除

「おそうじブルー」の定義について:

「義務感あり・なし」「ストレスあり・なし」と2つの設問を用いて全体を4区分。うち「義務感あり」「ストレス有り」と回答した人を「おそうじブルー」と命名しました。

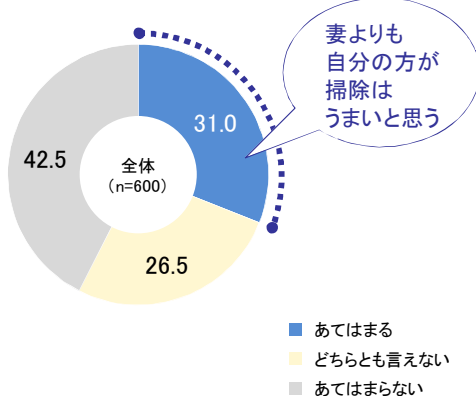
夫のお掃除参加の実態 ①



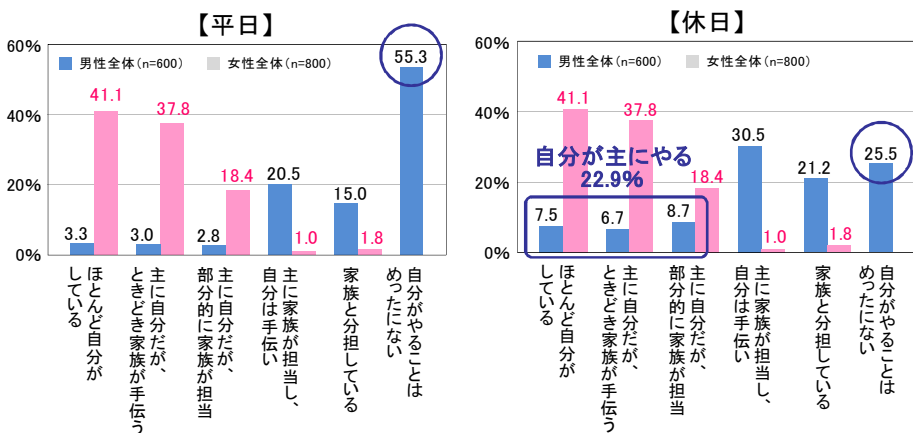
■ 妻より自分の方が掃除がうまいと思っている夫が3割以上、「主体的に行う」のは「平日1割」、「休日2割」程度。

お掃除に対する意識【グラフ①】を見てみると、「妻よりも自分の方が掃除がうまいと思っている」夫は、全体の約3割(31.0%)を占めています。しかしながら、家庭でのお掃除の分担【グラフ②】を見てみると一転、「平日掃除をやらない」夫は約6割(55.3%)、「休日でもやらない」夫は全体の1/4という結果に。「休日に自分から進んでやる」夫は、約2割(22.9%)しか存在していないことがわかります。自分の方が掃除がうまいと思っても関わらず、平日はもとより休日も掃除をしない夫が多数を占めているのが現状です。

【グラフ①】お掃除に対する意識



【グラフ②】家庭でのお掃除の分担



■ 2週間以内の自宅のお掃除でも、男性の参加率は圧倒的に低い。

2週間以内に自身で行った自宅のお掃除ランキング【表①】によると、夫は、1位「食事の後片付け」49.3%、2位「浴室」47.8%、3位「床の掃除機がけ」43.8%。妻が行った自宅のお掃除(1位の「食事の後片付け」94.4%、2位「トイレ」88.8%、3位「浴室」87.1%)と比較すると、男性の掃除参加率は圧倒的に少ないことが数値からも明らかとなっています。

【表①】この2週間に自身で行った自宅のお掃除

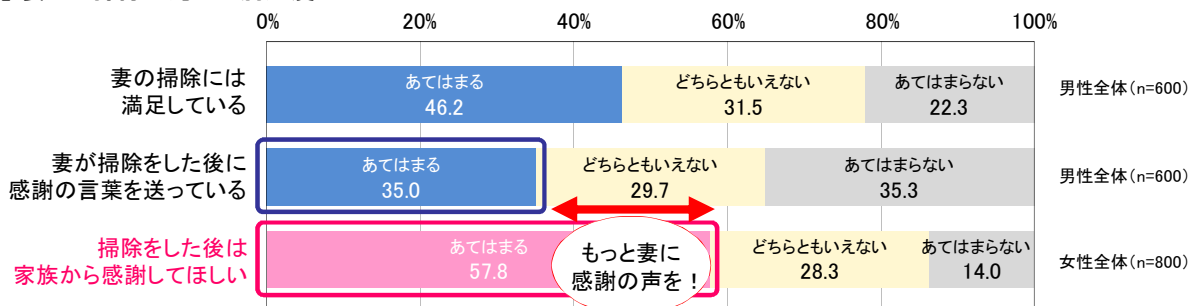
	男性全体 (n=600)		女性全体 (n=800)	
1位	食事の後片付け	49.3%	食事の後片付け	94.4%
2位	浴室の掃除	47.8%	トイレの清掃	88.8%
3位	床の掃除機がけ	43.8%	浴室の掃除	87.1%
4位	トイレの清掃	26.5%	床の掃除機がけ	86.4%
5位	キッチンの清掃	24.2%	洗面所の清掃	83.1%



■ 妻の掃除には「満足」と回答も、感謝の言葉は「伝えきれていない」。

妻のお掃除に対する満足度【グラフ③】を見ると、「妻の掃除に満足している」夫は、約半数(46.2%)にのぼるが、「妻が掃除をした後に感謝の言葉を送っている」夫は、4割を下回ります(35.0%)。前回調査によると、約6割(57.8%)の妻は「掃除をした後は家族から感謝してほしい」と答えています。夫が感謝の気持ちを伝えることで、妻の掃除ストレスが低減されると考えられます。

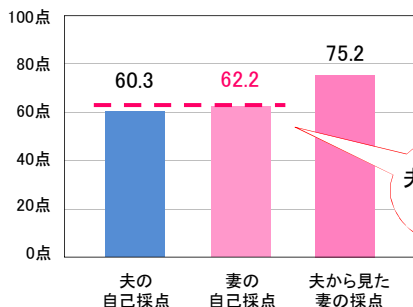
【グラフ③】妻のお掃除に対する満足度



■ 夫は、妻や自分の掃除に関する評価が高いが、採点基準も低め。

お掃除に対する自己採点【グラフ④】を見ると、夫も妻も「自分の掃除の自己採点」は約60点。しかし、「夫から見た妻の採点」は約75点と、夫の妻に対する評価は高いことがうかがえます。一方で、夫の自己評価の基準が甘いことも見受けられます。その理由として、【参考】に見られるような意見からも、お掃除に対する目標設定の低さが見受けられます。

【グラフ④】お掃除に対する自己採点



夫の自己評価が甘い？

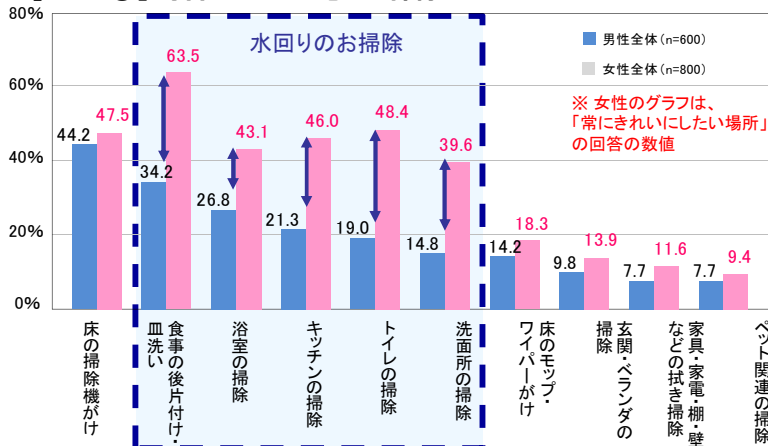
【参考】男性の自己評価は甘口気味！？ (FAより抜粋)

- 90点：定期的に行っている。ここ数年ゴキブリがでていない(20代)
- 85点：週に1回なのでマイナス15点(20代)
- 80点：気持ちはもう少し手伝いたいが、お皿洗いでいっぱいいっぱいなのでマイナス20点(40代)
- 75点：最後までやりきれない。まあいっかと中途半端におわる(30代)
- 70点：見えないふりをしているところもいろいろあるから(40代)
- 60点：自分の用事でやる時は100点、頼まれた時は適当なので40点(40代)

■ 妻の強烈な義務意識に反して、夫は「毎日の掃除はそこまでなくていい」と感じており、日常的なプレッシャーの低さから、夫の45%が「おそうじマイペース層」を占める。

毎日すべきだと思うお掃除【グラフ⑤】を見ると、水回りに関しては、夫は妻ほど「毎日やらなくてもいい」と考えていることがわかります。また、お掃除を義務と感じストレスを感じている、男性のおそうじブルー【表②】層は全体の12.8%。女性の割合(41.5%)と比べて圧倒的に低い結果となりました。

【グラフ⑤】毎日すべきだと思うお掃除 (上位10項目以降は割愛)



※女性のグラフは、「常にきれいにしたい場所」の回答の数値

【表②】男性のおそうじブルーについて

	お掃除は義務だと思う	お掃除は義務だと思わない
お掃除にストレスを感じる	おそうじブルー層 12.8% (主婦: 41.5%)	おそうじイヤイヤ層 25.8% (主婦: 14.8%)
お掃除にストレスを感じない	おそうじポジティブ層 16.3% (主婦: 22.6%)	おそうじマイペース層 45.0% (主婦: 21.1%)

■ 夫の参加意欲向上には「効果・成果の実感しやすさ」、「ご褒美」がポイント。「プロジェクト型掃除」が有効か。

お掃除へのやる気や達成感につながる【表③】を見てみると、「きれいを実感」、「便利なお掃除道具」、次いで「ご褒美」「家族の感謝」で、日々の仕事と同じく「実感に繋がる、指標が分かりやすいこと」が重要であるといえます。夫を巻き込むためには、彼らが慣れ親しむ仕事のように、掃除の「目的」や使用道具と方法、終わらせて欲しい「納期」やキレイにする「目標」などを分かりやすく指定する、「プロジェクト型掃除」が有効に作用しそうです。

【表③】お掃除へのやる気や達成感につながる

	割合(%)	人数(人)
きれいを実感できた時(目立つ汚れがある時など)	28.2%	127
便利、新しい、高機能なお掃除道具(手段)など	18.6%	84
お小遣い・ケーキなどのご褒美がある	12.4%	56
家族に感謝された時	10.2%	46

【参考】モチベーションを上げるには、「分かり易さ」が重要 (FAより抜粋)

- ゲーム感覚、音楽付きでポイントが溜まったり、お金が増える楽しみがほしい(20代)
- 目立つところが綺麗に落ちること。目に見えてわかると達成感につながる(30代)
- スマートフォンを使って掃除達成度的なものを管理出来たらおもしろい(30代)
- きれいになったのが目に見えるようになって、それが長続きすること(30代)
- 終わった後のビールがめれば頑張れる(40代)
- 家族にすごく有難がられると、かなりやる気がわくと思う(40代)
- 自宅に来客があるときは、前向きに掃除をがんばれる(40代)

※「特になし」を除外した有効回答数(n=451)中の割合

■「目立つ汚れとホコリを取る」、「水回り」、「こまめさ」などで、毎日のお掃除は十分か。

妻が掃除の手を抜いている・サボっていると思うポイント【表④】によると、「汚れ、ホコリが目立つとき」、「キッチン・トイレ・お風呂など水回り全般の掃除を怠る」、「こまめに掃除をしない・掃除回数が少ないと感じる」「テレビの裏・棚の上など「目につきにくい」場所の掃除を怠る」などの意見が上位に上がる結果に。逆手にとれば、この4つを意識しながら毎日の掃除をおこなえば、夫の高評価が期待できます。その他の意見からも、意外と細やかに妻の掃除を観察する、夫の姿が浮かび上がります。

【表④】妻が掃除を手を抜いている・サボっていると思うポイント

	割合(%)	人数(人)
汚れ、ホコリが目立つとき	8.8%	52
キッチン・トイレ・お風呂など水回り全般の掃除を怠る	8.3%	49
こまめに掃除をしない・掃除回数が少ないと感じる	8.2%	48
テレビの裏・棚の上など「目につきにくい」場所の掃除を怠る	5.3%	31
特にない(よくやってくれていると思う)	48.5%	285

※全回答者(n=588)中の割合

【参考】意外と細かいところをチェックする意見も (FAより抜粋)

風呂掃除は洗剤を使わず水とスポンジでこするだけがほとんど(20代)
 エアコンのフィルターのランプが付いている時。テレビの裏が汚い時(20代)
 子どもが落とした食べカスの掃除など、食後のテーブル拭きが遅い(30代)
 ソファの上に洗濯物を数週間片付けずそのまま。ジュースの空き缶も、30本ぐらいたまるまで台所に置きっぱなしでいららす(30代)
 ものを動かさずに掃除機をかけたり、ドアの後ろは埃がたまりやすいのに、掃除機をかけた後でも(忘れていて)ほこりが残っている点(30代)
 どうせ子どもが散らかす汚すからといって、まとめて掃除しようとする(40代)
 床掃除は決してやりたがらない。お掃除ロボットを使用しているが、ごみの始末は常に私がやっている。ベランダなどの掃除もしたことがない(40代)
 掃除機をかけても、掃除機をきっちり、元の位置に戻さない。使ったものを、元の位置に戻せない。自分のものをどこに置いたか忘れてしまう(40代)

■夫婦のお掃除に対する理解が、ストレスレスな掃除のカギを握る

男性の好きなお掃除とやりたくないお掃除と、女性の好きなお掃除と手伝って欲しい掃除【表⑤】を比較。男性の好きなお掃除2位「浴室」や3位「後片付け・皿洗い」は、女性が手伝って欲しいお掃除1位、3位にそれぞれランクイン。一方で、男性がやりたくない1位「トイレ」や2位「キッチン」は、女性が好きなお掃除の3位、5位に相当。夫婦間で互いの得意不得意を話し合うことで、意外なWIN-WINの関係を築ける可能性も考えられます。互いが得意な持ち場を作り補完し合うことによって、よりよいお掃除ライフを過ごすためのヒントとなりそうです。



男性		女性	
好きなお掃除ベスト5		手伝って欲しいお掃除ベスト5	
1位	床の掃除機がけ	1位	浴室
2位	浴室	2位	窓ガラス・サッシ
3位	食事の後片付け・皿洗い	3位	食事の後片付け・皿洗い
4位	床のモップがけ	4位	エアコン
5位	家具・家電の拭き掃除	5位	庭・外回り
やりたくないお掃除ワースト5		好きなお掃除ベスト5	
1位	トイレの掃除	1位	床の掃除機がけ
2位	キッチンの掃除	2位	床のモップがけ
3位	レンジ・換気扇	3位	キッチンの掃除
4位	床のそうきんがけ	4位	食事の後片付け・皿洗い/洗面所
5位	洗面所	5位	トイレの掃除

【表⑤】好きなお掃除ベスト5とやりたくないお掃除ワースト5、手伝って欲しいお掃除ベスト5(全17項目)

床の掃除機がけ、浴室の掃除、食事の後片付け・皿洗い、床のモップ・ワイパーがけ、家具・家電・棚・壁などの拭き掃除、キッチンの掃除、洗面所の掃除、庭・外回りの掃除、サッシや窓ガラスの掃除、玄関・ベランダの掃除、トイレの掃除、レンジ周り・換気扇の掃除、エアコンの掃除、床のそうきんがけ、床のほうきがけ、ペット関連の掃除、無回答

「夫のお掃除実態調査」の背景と概要

厚生労働省によると1997年以降、専業主婦世帯と共働き世帯は逆転し、今や「共働き世帯」が過半数を超えています。（共働き1068万世帯、専業主婦805万世帯 ※）。しかしながら2012年12月に実施した「主婦のお掃除実態調査」で「掃除を主に自分ひとりで言う」と回答した主婦が8割と、お掃除を一人で背負いながら悩む日本の主婦の実状が明らかとなりました。 ※「平成24年版 労働経済の分析」より

■ 日本の主婦にとってお掃除は

「理想はしっかりやりたいが、実際はできてない」もの

毎日お掃除をする主婦は全体の3割程度。毎日すみずみまでお掃除する「きちんと派」(42.3%)が理想ですが、実際は「きちんと派」はわずか6.8%です。

■ 主婦にとってのお掃除はストレスフルな家事労働

お掃除を「義務」と感じている主婦は64.2%。また、主婦の半数以上がお掃除に「ストレスを感じる」(56.2%)と答えており、「お掃除をする時間がない」「やっても感謝されない」などの声も上がっています。

■ お掃除のほかに優先することが増えており、主婦は毎日忙しい

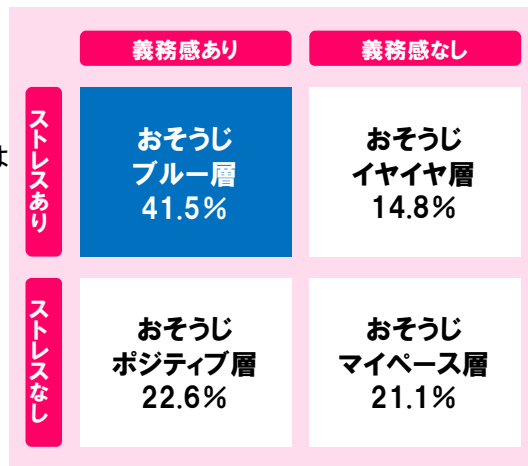
「お掃除」を優先順位第1位としてあげた主婦はわずか1.4%と、他の家事と比べ最も低い結果に。また、お掃除の手抜きや省略をするのは、忙しさが大きな要因となっています。

■ 「家族のため」孤軍奮闘する主婦のお掃除ライフ、本音は「家族に参加して欲しい」

お掃除は「主に自分ひとりで言う」と大半(78.9%)が回答。本音を言えば「家族にも参加して欲しい」(80.1%)との声も。

■ お掃除を「義務」と思い頑張りも、「ストレス」に悩む「おそうじブルー」層は全体の4割！

お掃除を「義務」と捉えつつも「ストレス」を感じていると回答した「おそうじブルー」層の主婦は、全体の41.5%。「おそうじブルー」層は、お掃除が「好きではなく」(62.4%)「苦手」(69.3%)ですが、「家族の健康のために」(82.5%)お掃除に励んでいる、健気な主婦たちです。



子育て主婦は「お掃除ブルー」層をはじめ掃除に対してストレスを抱えながらも、ひとりで掃除。その8割が家族の参加を望んでいる。解決に向けたヒントを探るため、夫のお掃除に関する意識はどのようなものか確認するために、子どもを持つ夫600名に調査をしました。

- 調査名 「夫のお掃除実態調査」
- 実施時期 2013年3月13日(水)～3月14日(木)
- 調査手法 インターネット調査
- 調査対象 関東(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)および関西(大阪府、京都府、兵庫県)の子どもと同居している20～40代既婚男性
- サンプル数 600名(妻が専業主婦300名 妻が有職主婦300名)